

## 令和6年度 第2回 学校運営協議会 議事録

令和6年11月27日（水）16時00分～17時00分

学校運営協議会委員（◎は会長、○は副会長、他は五十音順）

◎平野 周二（横浜市西区第5地区自治会連合会 会長）

○小島 由美（横浜平沼高等学校 校長）

皆藤 慎一（横浜平沼高等学校 同窓会真澄会 会長）

加藤 善浩（横浜西口エリアマネジメント事務局） 欠席

ジギャン クマル タパ（かながわ国際交流財団 グローバル人材育成グループ） 欠席

遠山 満（横浜市立岡野中学校 校長）

藤井 千春（早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授）

深山 由希子（横浜平沼高等学校 PTA会長）

脇本 健弘（横浜国立大学 教職員大学院 准教授） 欠席

### 本校職員

川上 司（副校長）司会・記録 島崎 理恵子（事務長）

富田 泰夫（教務・情報グループGL（グループリーダー））

日野 裕紀（総務グループGL）

岡田 真弥（研究開発グループGL）

一柳 浩一（進路グループGL）

志方 大悟（生徒会グループGL）

石附 泰典（生活グループGL）

### ○ 開会

### ○ 学校運営協議会・評価部会

#### 1 校長挨拶

第1回学校運営協議会以降の学校の動きをお伝えする。ハンドボール部がインターハイでベスト16というものすごい成果をあげた。補助があっても保護者の負担が大きく、やはり近江大会に出場したかるた部とともにクラウドファンディングを試みたところ、目標額（ハンドボール100万円、かるた部50万円）を上回る達成ができた。応援メッセージなどいただき、生徒の励みになった。

神奈川まなびや基金では同窓会にも協力いただき、教室の遮熱フィルムやテニスコート照明整備に利用させていただいている。初めての試みとして事業提案型も行うなど、数々のご援助で学校の充実を図っている。

来年度は創立125周年であり、式典一年前にあたる先日、キャッチフレーズ「学びの灯火次なる世代に」にかけて「点灯式」を行った。

10月1日～4日に2年生が修学旅行に行った。費用のかかる沖縄から今年は広島での平和学習などに変えた。タイムリーに10月11日には被団協のノーベル平和賞受賞が発表された。また2年生は校内スピーチコンテストにも臨み、先日はレベルの高い発表が行われた。

先日、委員の平野会長が実行委員長を務める横浜市西区制80周年記念式典に参加させてもらい、菅元首相などの参列もあり、盛大な催しに感銘を受けた。

教員の働き方改革に関連し、県の施策でオフィス改善が全県立高校全校で実施される。本校は1年目の今年度実施で、年末に職員室などの改修を控えている。

本日の会議が有意義なものになるよう委員の皆様にはお願いしたい。

#### 2 報告、連絡事項

令和6年度第1回「生徒による授業評価」集計結果について、岡田GLから報告があった。

#### 3 【協議】令和6年度学校目標中間評価について

(1) 新教育課程、一人一台端末について

富田GLから、教育課程について各学年で今後検討の予定である、一人一台端末の機器整備はほぼ整っているなどの説明があった。

(2) 授業改善、一人一台端末について

岡田GLから、授業改善について今年度は教科会を増やす、一人一台端末の活用は広がっている、今後は教科間で協力して取り組むなどの説明があった。

(3) 生徒会行事・委員会活動、地域貢献活動について

志方GLから、生徒による企画・運営と職員によるサポートで体育祭、文化祭を行った、合唱コンクールもそのように行う予定だが、主体性に重きを置くと生徒のクラス説明などで不安があるなどの説明があった。同じく志方GLから、他グループと連携をとって地域貢献活動を行った、地域の協力に感謝申し上げる、普段体験できない体験が生徒には有意義だったなどの報告があった。

(4) 教育相談、災害への備えについて

石附GLから、昨年度導入のかながわ子どもサポートドックについて、SC、SSWの面談につげづらい課題があり、学校独自の質問項目で専門家への相談の希望を加え、プッシュ型面接のテキストをSCが用意したなどの報告があった。同じく石附GLから、防災訓練やDIG研修などを行い生徒の意識向上を図っているが、危機感を持たせる改善、工夫が今後の課題だとの説明があった。

(5) Hi-ゼミ、スタディショップについて

一柳GLから、ちょうど学校推薦型選抜が終わるところだと報告があった。また、グループが様々なサポートを試みるなか、Hiゼミ、スタディショップへの生徒の参加状況が若干頭打ちであり、これは新教育課程での科目増と一科目あたりの単位数減により、生徒は授業課題や小テスト対策で手一杯の状況にあるからではないかとの分析があった。

(6) PTA活動、教員の働き方改革について

日野GLから、コロナ禍が終わって活動内容が充実している、ライフスタイルに沿った形で充実するよう検討していきたい、活動には予算面の工夫も必要なため会長と相談して運営の見直しを図りたいとの説明があった。同じく日野GLから、Teamsの活用で会議の時間短縮や回数削減に取り組んでいる、多忙感解消の試みとして来週1週間は朝のホームルーム時間の5分拡大し、朝の余裕が生徒・職員にどう影響するか検証するとの説明があった。

(7) 不祥事ゼロプログラム中間検証について

副校長から、中間検証の内容について資料が示された。

(8) 令和6年度学校目標中間評価への感想・意見・質疑

◎ 平野委員

西区制80周年記念行事に携わっているが、記念式典はおかげさまで成功した。12月21日には西区キャンドルアート2024があるので多くの方に来てほしい。地域との協働では、補足的避難所にあたる本校が日中の授業中に大災害にあったとき、地域に対してどう対応すべきか考えたい。鉄道が止まる事態に本校や岡野中への避難者へどう対応するかなど、いろいろ考えていきたい。また防災面では、西区第5地区はこれまで大きな事件、事故はなかったが、11月に入り路上強盗が相次いでいる。現場は路地内の死角と聞いている。今後は防犯対策も始めなければいけないと思った。

◎ 遠山委員

先月の岡野フェスタでは、西公会堂で行った合唱コンクールの昼食場所に平沼高校を提供していただいた。中学生には刺激となり、高校を考えるきっかけとなっている。また10月14日に西公会堂であった西区中学校・高等学校吹奏楽フェスティバルでは初めて

高校生の演奏を聴いたが、ものすごいレベルで、こちらも生徒の刺激となっている。立派な高校生を見て中学生は憧れたらう。授業改善に関して、教科会を増やすのはよい試みだ。ICT活用の濃淡も埋められる。教科間の授業見学もよい。教育相談に関して資料にプッシュ型面接のテキストがあったが、こういう働きかけができればすごくよいと思う。さっそく活用させてもらいたい。Hi-ゼミ、スタディショップに関して、本校も放課後に地域の方の協力を得て講習を行っているが、授業や部活動でかなり忙しいのか参加者が少ない。魅力的なことをやっていかなければいけないと思う。地域との連携では、高校生にとって馴染みの薄い地域へ愛着を育めるよう、よい働きかけ、試みがなされている。Teamsの活用は横浜市立中学でも来年度からの活用に向けて準備中だ。何か参考になることがあれば教えてほしい。

◎ 藤井委員

生徒による授業評価の項目には、新学習指導要領で整理された資質・能力の3つの柱（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）に沿った観点と関連させて説明することが必要ではないか。また、総合的な探究の時間の評価もあってよい。全国的には探究活動への様々な試みが行われ、成果をあげている。通信制の高校がしっかりと目標を定めた生徒には人気となっている。負けずに盛り上げてほしい。

◎ 皆藤委員

私が生徒のころは翠嵐高校との定期戦を行っていた。きっかけは火災にあった翠嵐が平沼で勉強していた一時期、対抗戦をやろうとなったらしい。5年前、翠嵐高校の同窓会長とそんなことができたらいねとスケジュールをつくったが、コロナで流れた。そして今年、両校の部活動の練習試合を翠平戦として行った。残念ながら平沼が勝っているものはあまりない。来年は優勝旗を持ち帰れるよう、生徒の方々もしっかり準備して頑張ってもらいたい。

◎ 深山委員

教育課程について、小テストが多いと聞く。ちまちま勉強している姿を見ると、あれで深い学びにつながるのか、違うことをやらなくてはいいのかと思う。進学校はどこもこんな風なのか。また授業ではグループワークがよく行われているようだが、ディスカッションというよりは情報共有と聞く。生徒による授業評価について、項目にICTの活用がない。授業が分かりやすく、理解できるかのような項目もない。防災面について、平野会長と同様、治安が悪くなってきていると感じる。学校が取れる対策はないかもしれないが、注意喚起はお願いしたい。

→（一柳GL）私は小テストをやっている派だ。基礎を固められていないと先に進めない  
ので、とりあえずの閉門として行っている。生徒は真面目なので、テストと名がつく  
と集中して取り組む。

→（一岡田GL）先ほど藤井委員からもご指摘があったが、授業評価の項目については高  
校教育課から提示されており、制約が多い。

4 報告・連絡

川上副校長から、時間の都合上、本日の地域連携部会及び学力向上・グローバル教育推進部会は中止する、第3回学校運営協議会は3月実施予定で日程を調整させてほしいと伝えられた。

○ 閉会

校長から、短時間だったが有意義なご意見をいただいたことに感謝し、横浜市西区唯一の高校として、今後も地域と協力して教育活動を行いたいとのコメントがあった。